

第17回 明治大学中央図書館企画展示  
明治大学特別功勞賞受賞記念

# 唐十郎展



Karra Jūrō

会場：明治大学中央図書館ギャラリー  
会期：2006年11月21日～2007年1月22日  
後援：明治大学連合父母会、明治大学校友会、連合駿台会

## 「唐十郎展」開催にあたって

図書館長・文学部教授  
原 道生

このたび、明治大学では、唐十郎氏に対し、本学の栄誉を高める上で多大な貢献を果たした卒業生に贈られる「明治大学特別功労賞」を贈呈することと致しました。

本特別展示会も、そうした同氏顕彰の企ての一環として、開催されるものであります。

1960年代以降の激動する日本の演劇界の中にあつて、唐十郎氏が、「紅テント」で知られる衝撃的な小劇場運動の試み等を通して、常に前衛的な演劇運動を領導し、数々の目ざましい変革を生み出し続けてこられていることは、ここに改めて断るまでもないでしょう。

ところで、そのような同氏が、自身、演劇活動と関わりを持つに至った発端は、1958年4月に明治大学文学部文学科演劇学専攻に入学し、その在学中に、本学の学生劇団「実験劇場」のメンバーとして活躍するようになったことに始まるものとお聞きしています。だとすれば、演劇人としての唐氏にとってはもとより、戦後の一時期を画することにもなった、同氏を中心とする前衛演劇運動の総体にとっても、本学は、重要な基点を形成するものとなっていたということが許されるように思われます。本年2月、同氏は讀賣演劇大賞芸術栄誉賞を受賞されましたが、そのことを契機に、氏の母校である本学が、上記の特別功労賞を贈り、併せて、この特別展示会を催す運びとなりましたことは、その意味においても、まことに意義深いものがあると考え次第です。

演劇人としての唐十郎氏の活動は、俳優・戯曲作家・演出家・制作者・劇団主催者、さらには教育者というように、極めて多彩なものですが、また、小説家としても、多くの優れた話題作を発表してきているということも、広く知られた事実といってよいでしょう。しかも、それら多岐にわたって展開された同氏の活動に対しては、そのほとんどの領域において非常に高い評価が寄せられた結果、岸田國士戯曲賞・泉鏡花文学賞・芥川賞・紀伊國屋演劇賞個人賞・讀賣文学賞戯曲シナリオ賞・讀賣演劇大賞優秀演出家賞・鶴屋南北戯曲賞、それに前記の讀賣演劇大賞芸術栄誉賞というように、数多くの賞が与えられています。

そのような同氏の著作は、その多方面に及ぶ活躍の範囲を反映して、すこぶる歴大な数に上りますが、さいわい本館には、その大半が収蔵されていますので、それらのすべてを網羅的に展示することといたしました。どうか御高覧の上、上記のような唐氏の活動の全貌を御一望いただければ幸甚と存じております。

また、今回の企画に際しましては、唐氏の御好意により、御所蔵の、創作ノート・台本類・小道具・チラシ・ポスター・ビデオ・DVD等々の他、各賞の賞状や愛用の文具類などまで、恐らく唐ファンには応えられない貴重な品々を拝借し、花を添えさせていただいたことも申し添えておきます。唐氏御夫妻を始めとする関係各方面の方々の御協力に対し、心からの謝意を表する次第です。

## 唐十郎 略年譜

- 1940（昭和15）年 2月11日、東京市下谷区万年町に映画監督大鶴日出栄、ミネの次男として生まれる。本名大鶴義英。
- 1958（昭和33）年 東邦医大附属高校卒業後、明治大学文学部文学科演劇学専攻入学。在学中は学生劇団「実験劇場」のメンバーとして活動。
- 1962（昭和37）年 明治大学文学部文学科演劇学専攻卒業。卒業論文「怪物への挑戦」120枚。劇団「青年芸術劇場」に研究生として入団。翌年4月退団。
- 1963（昭和38）年 7月「シチュエーションの会」（劇団状況劇場）旗揚げ公演、サルトル作『恭しき娼婦』を明治大学大学院ホール（大学院南講堂）で上演。
- 1964（昭和39）年 1月『24時53分“塔の下”行は竹早町の駄菓子屋の前で待っている』脱稿、4月、新宿日立レディスクラブホールで上演。
- 1965（昭和40）年 西銀座数寄屋橋公園で『街頭劇ミシンとこうもり傘の別離』上演。
- 1966（昭和41）年 新宿戸山ヶ原の米駐留軍の残したプールにて『腰巻お仙の百個の恥丘』上演。
- 1967（昭和42）年 『時夜無銀髪風人（ジョン・シルバー）』新宿ピット・イン。『腰巻お仙義理人情いろはにほへと篇』（『月笛お仙』）新宿花園神社にて紅テント初興行。
- 1968（昭和43）年 若松孝二監督『犯された白衣』主演。大島渚監督『新宿泥棒日記』出演。『由比正雪』新宿花園神社。
- 1969（昭和44）年 『腰巻お仙振袖火事の巻』新宿西口中央公園で強行公演。都市公園法違反により逮捕される。新宿花園神社を追放される。
- 1970（昭和45）年 『少女仮面』で1969年度第十五回岸田國士戯曲賞を受賞。
- 1972（昭和47）年 『二都物語』を戒厳令下の韓国ソウルで初演。詩人金芝河と行動をとともにする。
- 1973（昭和48）年 『ベンガルの虎白骨街道魔伝』をバングラデシュのダッカ、チッタゴンにて上演。戯曲『盲導犬』を櫻社に執筆。雑誌「ドラキュラ」（新樹書房刊）を責任編集（創刊号のみで廃刊）
- 1974（昭和49）年 『唐版・風の又三郎』アラブ版でレバノン・シリアのパレスチナ・キャンプを巡演。『唐版・風の又三郎』刊行。
- 1975（昭和50）年 蜷川幸雄演出『唐版滝の白糸』上演。
- 1976（昭和51）年 雑誌「月下の一群」を責任編集。
- 1977（昭和52）年 筑豊田川のボタ山にて『蛇姫様我が心の奈蛇』上演。『蛇姫様』刊行。同作品を東京青山米軍キャンプ横にて上演。『唐版俳優修業』渋谷百軒店裏で上演。
- 1978（昭和53）年 11月『海星・河童 - 少年小説 - 』で第六回泉鏡花文学賞受賞。
- 1979（昭和54）年 『唐十郎全作品集』（冬樹社刊、全十巻、六巻で中絶）
- 1980（昭和55）年 ブラジル・サンパウロ、東京ほかで『女シラノ』上演。
- 1982（昭和57）年 新宿花園神社にて『新・二都物語』上演。
- 1983（昭和58）年 1月『佐川君からの手紙』で第八十八回芥川賞受賞。
- 1984（昭和59）年 NHK『安寿子の靴』放映。
- 1985（昭和60）年 『ジャガーの眼』上演。劇団第七病棟公演『ビニールの城』（戯曲提供）
- 1988（昭和63）年 安藤忠雄設計の仮設劇場下町唐座にて『さすらいのジェニー』上演。
- 1989（昭和64/平成元）年 二年間休止していた紅テント公演を復活。
- 1996（平成8）年 映画『海ほおずき』（林海象監督）の脚本、主演。
- 1997（平成9）年 横浜国立大学教授就任。
- 2001（平成13）年 横浜国立大学にて第一回唐ゼミ公演『24時53分“塔の下”行は竹早町の駄菓子屋の前で待っている』
- 2002（平成14）年 フジテレビ『北の国から』にトド撃ち獵師役で出演。
- 2003（平成15）年 『泥人魚』上演。
- 2004（平成16）年 前年の『泥人魚』で第三十八回紀伊國屋演劇賞、第七回鶴屋南北戯曲賞、第五十五回讀賣文学賞（戯曲・シナリオ賞）、第十一回讀賣演劇大賞優秀演出家賞を受賞。
- 2005（平成17）年 1月29日、横浜国大にて『唐十郎教授・最終講義』イベント開催。4月より近畿大学客員教授。『教室を路地に!』（室井尚と共著）刊行。
- 2006（平成18）年 2月、第十三回讀賣演劇大賞芸術栄誉賞受賞。11月、明治大学特別功労賞受賞。

# 展示リスト

所蔵先//H - 中央図書館、//W - 和泉図書館、//S - 生田図書館、//HZ - 生田保存書庫、その他の記述は借用先、空欄は非展示

## 著書（単行本）

	書名	出版社	出版年	所蔵先
1	腰巻お仙	現代思潮社	1968.05	090.4/K29-3//H
2	ジョン・シルバー	天声出版	1969.02	090.4/K29-42//H
3	少女仮面 - 唐十郎作品集	学芸書林	1970.03	090.4/K29-44//H
4	謎の引越少女	学芸書林	1970.06	090.4/K29-45//H
5	河原者の唄	思潮社	1970.09	090.4/K29-43//H
6	吸血姫	中央公論社	1971.07	090.4/K29-46//H
7	煉夢術	中央公論社	1971.11	090.4/K29-47//H
8	少女と右翼 - 満州浪人伝	徳間書店	1972.05	090.4/K29-49//H
9	日本列島南下運動の黙示録	現代思潮社	1972.12	090.4/K29-48//H
10	ベンガルの虎(書下ろし新潮劇場)	新潮社	1973.02	090.4/K29-6//H
11	わが青春浮浪伝	講談社	1973.04	090.4/K29-5//H
12	ズボン(夢の王国1)	大和書房	1973.05	090.4/K29-50//H
13	戯曲 少女仮面 他二篇(角川文庫)	角川書店	1973.11	090.4/K29-35//H
14	二都物語・織假面	新潮社	1973.12	090.4/K29-4//H
15	唐版風の又三郎	角川書店	1974.06	090.4/K29-52//H
16	戯曲 盲導犬 他一篇(角川文庫)	角川書店	1974.08	090.4/K29-34//H
17	夜叉綺想(書下ろし新潮劇場)	新潮社	1974.09	090.4/K29-7//H
18	紅疾風	学芸書林	1974.10	090.4/K29-9//H
19	魔都の群袋	潮出版社	1974.10	090.4/K29-8//H
20	幻のセールスマン	角川書店	1974.11	090.4/K29-51//H
21	戯曲 唐版風の白糸(角川文庫)	角川書店	1975.01	090.4/K29-37//H
22	腰巻おぼろ 妖獣篇	角川書店	1975.04	090.4/K29-53//H
23	少女と右翼 - 満州浪人伝(角川文庫)	角川書店	1975.06	090.4/K29-33//H
24	戯曲 吸血姫(角川文庫)	角川書店	1975.07	090.4/K29-36//H
25	紅疾風 新装版	学芸書林	1975.09	090.4/K29-9/B/H
26	風にテント胸には拳銃 - パレスチナ・パングラデシュ紀行	角川書店	1976.07	090.4/K29-10//H
27	戯曲 煉夢術(角川文庫)	角川書店	1976.09	090.4/K29-38//H
28	おちょこの傘持つメリー・ポピンズ	角川書店	1976.12	090.4/K29-54//H
29	蛇姫様	中央公論社	1977.05	090.4/K29-73//H
30	唐版俳優修業	角川書店	1977.11	090.4/K29-65//H
31	海星・河童 - 少年小説	大和書房	1978.06	090.4/K29-55//H
32	乞食修業 - 唐十郎対談集	冬樹社	1979.04	090.4/K29-82//H
33	唐版犬狼都市	北栄社	1979.05	090.4/K29-86//H
34	唐十郎全作品集 1 - 6	冬樹社	1979.06	918.6/241//H、918/370//W
35	調教師	中央公論社	1979.11	090.4/K29-12//H
36	風に毒舌 - 唐十郎第一エッセイ集	毎日新聞社	1979.12	090.4/K29-11//H
37	紅い戯れ唄	水兵社	1980.05	090.4/K29-16//H
38	女シラノ	白水社	1980.05	090.4/K29-13//H
39	豹の眼 - 唐十郎第二エッセイ集	毎日新聞社	1980.10	090.4/K29-14//H、914/730//W
40	沼 ふたりの女	漂流堂	1980.12	090.4/K29-15//H
41	黄金バット - 幻想教師出現・お化け煙突物語	河出書房新社	1981.01	090.4/K29-17//H
42	下谷万年町物語	PARCO出版	1981.02	090.4/K29-99//H、912/K10-1//W
43	下谷万年町物語	中央公論社	1981.11	090.4/K29-30//H
44	新・二都物語/鉛の心臓	新評社	1982.05	090.4/K29-29//H
45	佐川君からの手紙 - 舞踏会の手帖	河出書房新社	1983.01	090.4/K29-1//H
46	腰巻お仙 - 特権的肉体論 新装版	現代思潮社	1983.02	090.4/K29-19//H、912/K10-2//W
47	サンディッチマン	大和書房	1983.04	090.4/K29-27//H
48	下谷万年町物語(中公文庫)	中央公論社	1983.04	090.4/K29-39//H
49	シナリオ泪橋 村松友視原作、唐十郎・村松友視脚本(角川文庫)	角川書店	1983.06	090.4/K29-87//H
50	糸姫 藤原勝之漫画、唐十郎原作	青林堂	1983.07	090.4/K29-100//H
51	唐十郎血風録	文藝春秋	1983.11	090.4/K29-92//H、914/856//W
52	御注意あそばせ	河出書房新社	1983.12	090.4/K29-18//H
53	風に毒舌(旺文社文庫)	旺文社	1984.10	090.4/K29-89//H
54	魔都の群袋(潮文庫)	潮出版社	1984.04	090.4/K29-32//H
55	マウント・サタン	河出書房新社	1984.08	090.4/K29-28//H、913/K41-2//W
56	安寿子の靴	文藝春秋	1984.10	090.4/K29-20//H
57	毀れた模写 - 文芸時評	福武書店	1986.03	090.4/K29-22//H、914/990//W
58	ねじの回転 - 戯曲	サンケイ出版	1986.05	090.4/K29-105//H、912/K10-3//W
59	汗のドレス 島田雅彦・唐十郎著(アスファルト・ボックス 2)	河出書房新社	1986.06	090.4/K29-21//H
60	紙女房 - 楼閣興信所通信	文藝春秋	1986.07	090.4/K29-23//H
61	ジャガーの眼	沖積舎	1986.07	個人蔵
62	佐川君からの手紙 - 舞踏会の手帖(河出文庫)	河出書房新社	1986.08	090.4/K29-31//H
63	ピニールの城 唐十郎・第七病棟著	沖積舎	1987.05	090.4/K29-24//H
64	フランケンシュタインの娘	福武書店	1987.08	090.4/K29-71//H
65	さすらいのジェニー	福武書店	1988.04	090.4/K29-25//H
66	シェイクスピア幻想 - 道化たちの夢物語	Parco 出版	1988.05	090.4/K29-104//H、099/2433//H
67	電気頭	文藝春秋	1990.05	090.4/K29-26//H
68	蠱惑への傾斜 - 戯曲「電子城」「セルロイドの乳首」	河出書房新社	1991.01	090.4/K29-79//H
69	電子城 フェロモンの呪縛の巻	白水社	1991.04	090.4/K29-60//H
70	透明人間	白水社	1991.04	090.4/K29-66//H
71	オルゴールの墓 - 劇団第七病棟1976 1992 劇団第七病棟、唐十郎編	リポート	1992.10	090.4/K29-2//H、775/102//W
72	青春牡丹灯籠	集英社	1993.06	090.4/K29-70//H
73	戯曲集 桃太郎の母	徳間書店	1993.08	090.4/K29-76//H
74	ピョンソソ(まちあいしつ v.16, no.4)	ヘキストジャパン	1993.10	唐十郎氏
75	作家の自伝20 唐十郎 唐十郎著、扇田昭彦編(シリーズ・人間図書館)	日本図書センター	1994.10	090.4/K29-107//H、910.28/2386//H、910/5196//W
76	海ほおずき	文藝春秋	1995.09	090.4/K29-74//H
77	水の廊下	エー・ジー	1995.11	090.4/K29-41//H
78	雨月の使者	エー・ジー	1996.05	090.4/K29-69//H
79	少女仮面/唐版風の又三郎	白水社	1997.05	090.4/K29-94//H
80	特権的肉体論	白水社	1997.05	090.4/K29-63//H
81	幻想劇場	朝日新聞社	1997.06	090.4/K29-83//H
82	きみと代わる日 - 唐版とりかえばや物語	主婦と生活社	1998.02	090.4/K29-40//H
83	秘密の花園	沖積舎	1998.11	090.4/K29-75//H
84	蛇行	新潮社	2000.09	090.4/K29-58//H
85	泥人魚	新潮社	2004.04	090.4/K29-64//H
86	ガラスの使徒	アートン	2005.01	090.4/K29-62//H
87	鉛の兵隊(「en-taxi」09付録)	扶桑社	2005.03	090.4/K29-110//H
88	教室を路地に! - 横浜国大 vs 紅テント2739日 唐十郎・室井尚著	岩波書店	2005.09	090.4/K29-91//H、775.5/8//H
89	劇的恋慕	岩波書店	2006.04	090.4/K29-97//H、914.6/1213//H
90	風のほこり 唐十郎・新宿梁山泊著	右文書院	2006.04	090.4/K29-103//H
1	ドラキュラ 創刊号 唐十郎責任編集	新樹書房	1973.11	090.4/K29-96//H
2	月下の一群 創刊号 唐十郎編集	海潮社	1976.06	090.4/K29-111//H
3	月下の一群 第2号 唐十郎編集	海潮社	1976.12	090.4/K29-111//H

# 唐十郎 著書解題

## 腰巻お仙

最初の単行本。表題戯曲(『腰巻お仙 - 忘却篇』、『腰巻お仙 - 義理人情いろはにほへと篇』)の他に、演劇論「特権的肉体論」を収載。忘却篇の初演は、1966年10月新宿区新大久保の戸山ハイツ野外音楽堂。屋根も壁もなく、コンクリートの素舞台だけが残る戦前の野外音楽堂跡に筵を張り巡らした「灰がぐら劇場」で公演を行った。『ジョン・シルバー』で冒険への舟出をしたまま行方もしれない175人を求める「夜鷹のお蓮」や「乞食」、「バカ男」等、登場人物の多くは『ジョン・シルバー』と繋がりがあがる。これら男性原理的な冒険精神への賛同者と対立するように、女性原理的な「少女」(お仙)やその配下の「天才」が登場し、この二つの原理が作品全体をダイナミックに展開する。『腰巻お仙』シリーズとしては、これ以前に『腰巻お仙 - 百個の恥丘』、また忘却篇、義理人情～篇と三連作を成す『腰巻お仙 - 振袖火事の巻』がある。一方、「特権的肉体論」は、唐十郎独自の身体論であり、戦後の現代演劇論の代表となった。殴られた中原中也の姿から語り始められる“特権的肉体”は、詩人中原中也を借りた特異な演劇論であり、時代を超えた魅力を備える。と同時に、内容やその言葉遣いには1968年という発表時の時代の刻印が明確に刻まれており、文化史的な読み方も可能な多様さを備えている。1997年、「新・特権的肉体論」「超・特権的肉体論」と併せて新版『特権的肉体論』(白水社)が刊行された。(中野正昭)



## ジョン・シルバー

『ジョン・シルバー』、『ジョン・シルバー(続)』、『由比正雪』を収載。表題戯曲は1965年12月御茶の水・日仏会館ホールで初演。再演は二年後の1967年2月新宿のジャズ喫茶ピット・インで「新宿オペラNo.1『時夜無銀髪風人』」と題し、土曜深夜12時から三週行われた。嘗てはスティーブンスンの海洋冒険小説『宝島』に登場した魅力的な一本足の海賊も、今では結婚し、剥製のオウムを肩に乗せ、浅草の弁天湯の番台となった。怠惰な日常世界に埋没した一本足の海賊が、再び冒険の旅に出るという物語は、その後一連の“ジョン・シルバーもの”(『ジョン・シルバー』、『ジョン・シルバー(続)』、『絵巻巷談ジョン・シルバー』、『愛の乞食』、『あれからのジョン・シルバー』)へ受け継がれた。初期の唐十郎の演劇を特徴づけた英雄ジョン・シルバー像を確立した作品。(中野正昭)



## 少女仮面

宝塚歌劇の男役スター・春日野八千代を自称する女が経営する喫茶店を舞台に繰り広げられる、俳優の肉体をめぐる物語。「少女フレンド」を抱えた老婆が、貝という名の美しい少女を連れて地下の喫茶店「肉体」へやって来る。貝は永遠の処女・ツカガールを目指している。店へは、ひとりの男が水道水を飲みに戻り訪れる。同時に、ある腹話術師の別のドラマが進行する。腹話術師は店のボーイ主任から、「可哀想な人形の附属物」と罵られる。主任は不条理なまでに凶暴な男で、防空壕だったこの店から戦後ずっと外へ出たことがない。「嵐が丘」のヒースクリップに扮した春日野が登場すると、舞台は暗転し、ふたたび腹話術師が登場する。彼は人形を遣いながら、次第に身動きが取れなくなる。遂には肉体が入替わり、人形が腹話術師となり、人形と化した腹話術師を操りだす。舞台が一転して明るくなると、春日野がキャサリンに扮した貝に、「清く正しく美しく」のモットーを叩き込んでいる。頭上では地下鉄工事の騒音がする。春日野は主任に命じ工事をやめさせるよう外へ使わす。稽古のつもりでヒースクリップとの会話を続ける貝に対し、春日野は老いた女優の心情を吐露し始める。春日野が執拗に捜し求めるのはキャサリンではない。客席の名も知らぬ処女たちに奪われた、自身の肉体である。一方、主任が火を放ち外は大火事に、水道飲みの男に脅されシャツを引っ張られ、春日野は胸元を露わにする。主任は激怒し男を殺す。恥じらう春日野は、とたんに艶めかしい女性的な表情をのぞかせる。そして、十九の頃、遠征先の満州で恋し裏切られた甘粕大尉を強く想い、彼の幻を追いかける。次第に満州へ帰った幻想に囚われる。看護婦を連れてきた甘粕将軍が現れ、春日野の肉体を返しにきたファンたちを内地から連れてきたと語りかける。だが、彼女たちが春日野の肉体という実存を所有するはずもない。返されたのは、春日野がこれまでステージ上で披露してきた幻ばかりだ。見れば、彼女たちは皆、一様に春日野の面を被っている。愛に生きることもできず、観客のまなざしを超越することも出来ない私という存在を嘆き、春日野は叫ぶ。「あたしは、もう自分の貌なんか欲しくない。あたしは、何でもないんだ!」。鈴木忠志主宰の「早稲田小劇場」に書きおろした一幕劇(1969年10月初演)。第十五回岸田國土戯曲賞受賞。(『少女都市』、『腰巻お仙 - 振袖火事の巻』を併録。)(桂真)



## 河原者の唄

昭和45年までの唐作品(『由比正雪』、『アリババ』、『ジョン・シルバー』、『続ジョン・シルバー』、『腰巻お仙』、『少女仮面』、『少女都市』、『愛の乞食』)で唄われた劇中歌、37曲を集めた詩集。2005年1月の横浜国大における最終講義で作者自ら歌った「少女仮面」の劇中歌、「乙女の中の乙女」などを含む。巻末の「恋と冒険の時」という小文では、作者の生まれた「下谷万年町のとめどなく流れる水道の水」をガンジス川になぞらえつつ、それまでを振り返る。そこでは作者の記憶にある「水道の水」が繰り返し現れ、かつて住んでいたアパートの部屋で、水道の蛇口から水が流ればなしになっていた錯覚に陥り、「忘れて来たいくつもの時間と染み」に襲われるような気がしたことなどが綴られる。全ては「紅テントをひっさげて歌う私の胸の旋律」につながり、「私自身のイリュージョンの上っ面をローラースケートしていただだけの無名の肉体とはこの私のことだ」と結ばれている。(大橋裕美)



## 二都物語・鐵假面

『二都物語』初演は1972年3月韓国ソウルの西江大学構内の野外舞台。ソウルの劇団「常設舞台」との合同公演で「日韓反骨親善大会」と称し、状況劇場が戒厳令下に韓国語で無許可上演した。同作は状況劇場初の海外公演で、翌73年バングラデシュ『ベンガルの虎』、74年パレスチナ『風の又三郎』と続くアジア・中東公演の最初となった。国内初公演は東京・上野不忍池の水辺音楽堂で、作品を支える水のイメージを活かした好演と評された。以後1975年まで、同地は紅テントの格好の上演場所となった。韓国公演を念頭に書かれた同作は、戦争によって彷徨うことを余儀なくされた韓国・日本の人々の悪夢を描いており、劇構造の明確さや、視覚的效果もあって初演時から世評が高い。(中野正昭)



### 唐版 風の又三郎

全3幕。精神病院を抜け出し、童話に生きる男・織部は、目の前に現れた少年を「風の又三郎」と呼ぶ。二人は親しく語り合うが、少年は実は、ズボンを着て変装した飯炊き女・エリカだった。エリカは、かつて飛行機を乗っ取って死んだ恋人、高田三曹を想い続けており、自分につきまとう夜の男から逃げている。高田の肉をついに捜し求めた挙句、食べてしまうほどだったエリカだが、やがて、エリカを常に守ろうとする織部の存在が、高田の面影を越える。エリカのために耳をそがれた挙句、夜の男に刺された織部に、エリカは共に生き返ろうとかき口説き、再びズボン姿の又三郎に変身する。「どっどど どどうど」のテーマ曲が流れる中、二人は肩を抱き合って飛行機に搭乗、飛翔する。初演は1974年4月、状況劇場（於・福岡六本松九州大学教養部グラウンド）、エリカに李礼仙、織部に根津甚八。東京公演は同4～6月、於・東京湾夢の島、上野不忍池水上音楽堂。（大橋裕美）



### 盲導犬

新宿駅のコインロッカー前。伝説の不服従の盲導犬・ファキイルとはぐれた盲人・影破里夫が、銀杏という名の女と出会う。彼女はNo.330（ミサオ）のロッカーをこじ開けようとしている。今は亡き夫によって、昔の恋人・タダハルのくれた手紙が封印されているのだ。破里夫は駅をうろつくフーテン少年とファキイルを捜す。銀杏は盲導犬学校の研修生となったタダハルと再会する。だが、死んだ筈の夫が盲導犬学校の教師として現れ、銀杏は犬の胴輪をつけられてしまう。破里夫は助けようとするが、銀杏の夫に従順な犬たちがフーテンに襲いかかる。銀杏は夫と旅立った南の島で330の鍵を捨てた。その時、海の明るさを遮るように黒い大きな犬が飛び出し、銀杏ののど笛を噛み切る。ファキイルである。破里夫とフーテンには、ファキイルがロッカーの前を走っていくのが分かった。1973年5月、「櫻社」が初演。演出家・蜷川幸雄に初めて提供した一幕戯曲。（『海の牙 - 黒髪海峡篇 - 』を併録。）（桂真）



### 唐版 滝の白糸

全1幕。10歳の時に誘拐されたアリダは、その誘拐犯である銀メガネと再会する。二人がうちとけてゆく間に、所はアリダが育ち、ゴーストタウンと化した袋小路へと変っている。アリダは、自分の兄と心中し、一人生き残った水商売の女お甲から10万の金をせびられているが、それを聞いた銀メガネに金を持ち去られる。そこへ、今や二流プロレスの巡業に同行する芸人となったお甲が現れる。お甲は兄の一周忌に自分の芸を見せようと、水芸を披露。かつて兄とお甲が住んだ家の、崩れた物干し台からそれを見るアリダに、一瞬、死んだ兄が乗り移っているのをお甲は認める。その手首をかき切り、嘔き出す血で再び水芸を見せながら、お甲は流し台に乗って空を飛び回るのだった。初演は1975年3月、蜷川幸雄演出、葛井欣士郎による企画集団「花の社交界」のプロデュース公演（於・大映東京撮影所、特設スタジオ）、お甲に李礼仙、アリダに沢田研二を起用して話題となった。（大橋裕美）



### 海星・河童 少年小説

第六回泉鏡花文学賞受賞作。中学2年生の北原は、数学の教師から求められて海星の形をした自作の灰皿を渡す。教師は北原に、自分の同僚・園田が、教え子の死を苦に自殺した事件を語るが、実は生徒は、園田のために多面体の海星を取ろうとして海で溺死し、園田はその後追い自殺をしたのだった。教師は事件後、かつての園田の妻・ミヨと結婚するが、灰皿を見たミヨが北原に興味を持ち、3人で会うことになる。園田を忘れられないミヨは北原に、あの灰皿は、まるで抱き合った海星のように、心中の星を象ったように見える、と言い、自分のために多面体の海星を探してほしいと訴える。園田を超えられなかった教師はミヨの元を去り、北原はミヨのために海星を探す自分を夢想する（「海星 少年小説人情篇」）。中学を卒業した二郎の兄は、河童になると言い残して姿を消した。兄の恋人・町子との間に何かあったのかと訝る二郎のところへ、ある男が訪ねて来る。男は、かつて自分が河童だった頃、兄に命を助けられたが、今は兄と敵対関係にあるのだと告げて帰る。その後、とうとう兄を見つけたと二郎の元を再び訪れた男は、兄と対決するためだと言って、町子を連れ去ってしまう。慌てた二郎が思わず兄の名を呼ぶと、河童になり損ねた格好の兄が姿を現わす。二郎は夢中で男の話を伝えるが、兄はそれを否定して取り合わない。かみ合わない会話を交わす二郎はその時、河童に戻った男と町子が連れ立って歩いてくるのを見るのだった（「河童 少年小説政治篇」）。一人暮らしの兄・原価の元へ、「糸の町」で働く妹・マユがオルガンを持って突然帰ってくる。その目には整形に失敗した傷があった。マユは整形病院に糸を売り込んでいたが、看護婦がわざと糸に傷をつけ、手術中に切れて失敗するよう仕向けていたと訴えて姿を消す。原価が不審に思っていた矢先、整形病院の医師・姫小路から手紙が届く。病院を訪ねた原価に姫小路は、マユが売りつけたのは使用済みの糸だったと言い、妄想に陥ったマユは整形を暴行と思い込んでいるが、自分の手術は失敗ではないと主張する。しかしそこへ「悪徳外科医」という声と共に石が投げ込まれ、病院が襲撃される。原価はマユを探し出し、一緒にオルガンを弾こうと言いながら病院を後にする。マユの手から落ちたバッグには、使用済みの手術の糸が大量に入っていた（「糸姫 少年小説夢想篇」）。他に、エッセイ、澁澤龍彦との往復書簡を収録。（大橋裕美）



### 佐川君からの手紙 - 舞踏会の手帖

「突然御手紙差し上げます御無礼をお許し下さい。私は、この六月に、オランダ人の若い女性を殺し、その肉を喰ってパリ警察に逮捕されたものです。只今、パリのサンテ刑務所におります。ノ……唐さんが私の事件をテーマに、映画化を考えておられる旨、おきき致しました。……私が、前々より、映画化を秘かに考えていたテーマがあることに、触れたことが御座います。それは、『あこがれ』という題の、一人の東洋人（というより日本人）の男が、一人の西洋人の女性にあこがれ、ついにそのあこがれの果てに女性を殺し、その肉を喰うというものです。」



「……二ヶ月余りも返事を書けなかったのは、あなたの手紙に捺された物々しい5という検閲スタンプに恐れをなしたわけではありません。『あこがれ』について、躊躇したせいでした。『あこがれ』は、初めての手紙に書かれているものです。『あこがれ』は、あなたが夢想した台本の名です。」

第八十八回（1982年下半年）芥川賞受賞の小説。1981年6月パリ、日本人留学男性が同じオランダからの留学女性を殺害、その死体を食べる事件が起こる。パリで実際に起こったセンセーショナルな人肉事件の謎 - 究極の愛“カニバリズム”に迫る作品。執筆の発端

は、事件の映画化を企画していた唐十郎のもとに届いた一通の手紙から始まる。「……私の事件を映画化なさるそうですが、主演させていただきます。サンテ刑務所から送られてきた事件の当事者佐川一政の手紙に触発され、文通を重ねた唐十郎は、面会を求めてパリへと赴き、数々の数奇な出来事に遭遇する。作品の書き出しはノンフィクションを思わせる。が、読み進めるうちに内容は虚実の境を彷徨い、遂には唐十郎の劇的想像力に支えられた結論、“唐十郎が夢想した台本”へと達する。「唐十郎氏の『佐川君からの手紙』をよみはじめて、しばらく視点が合わなかったが、この小説がいわゆる小説らしい小説として書かれたのではなく、観客席を意識した舞台上の展開であると気がつく、ひきこまれるような興味をおぼえた。作者が劇場の座長であり、座付作者であるわけである。この小説は何も結末を求めていない。小説の常識としての納得を求めていない」と選考委員の一人である丹羽文雄が感想を漏らしたように、現実の事件を題材にしながらも、感覚的にも知的にも唐十郎自身の個人的な幻想世界へと読者を誘う作風と結末は、従来の唐の演劇的虚構性が小説という形で実践され、作家としての唐十郎の面白さを示した。(中野正昭)

### 蛇行

かつて靴の足型を作っていた田口は、水島と名乗る少女から緑色の小蛇を預かり、親しくなる。そのせいで少女虐待者と勘違いされる田口だったが、田口を尾行する男・氷室から、かつての同僚・白井が、田口の名を騙って少女のポルノビデオを製作していると告げられる。しかし田口の前に現れた白井は、少女を撮影しているのは自分ではなく有名なペドファイルの集団で、そのビデオには、田口の作った足型が盗用されていると言う。田口は水島と組んで足型を奪い返そうとするが、大失態を演じ、それを全てビデオに撮られる。そのビデオを白井が利用し、教会の一室で愛好家を集めて上映会を行う。人形や動かない少女、田口の作った足型を偏愛する白井は、それを最後に信仰の道に入ろうとしていた。田口と水島は、足型と交換に白井から金を手に入れることになるが、その足型は白井の手に渡る直前、川の濁流に呑込まれ、田口のポケットにいた小蛇もまた川へと消えていった。(大橋裕美)



### 泥人魚

戯曲(二幕)。2003年4月、「劇団唐組」が初演。第五十五回読売文学賞(戯曲・シナリオ賞)、第三十八回紀伊國屋演劇賞(個人賞)、第七回鶴屋南北戯曲賞、および第十一回読売演劇大賞(優秀演出家賞)受賞。まだら呆けの詩人・伊藤静雄が嘗む都会のプリキ店で暮らす青年・浦上蛭一。彼は干拓事業の賛否に揺れる長崎県諫早湾の漁港を追われてきた。潮受堤防(通称ギロチン堤防)は内側の調整池の水を腐らせ不漁が続く、池の埋立てに反対だった仲間の漁師が次々と土建屋に鞍替えしていく。そんな現実絶望して、蛭一は呟いた。「あの鉄の扉のバリアーは、たった一枚の、それも厚さ〇・二ミリのウロコがあれば抜かれる。そんな人魚の背につかまり、夢の中を泳いでいくなら」。蛭一の言葉を耳にしたのか、季節労働者の二郎は片目が義眼の漁長・ガンと無茶な約束を交わす。もし、お互い土建屋に寝返るようなことがあれば、自分は顔につばきを受ける。代わりにガンには養女・やすみを使わせ、調整池で泳ぐ人魚になってもらおうと。結局、ふたりは生活のため漁の仕事を手を捨てた。まもなく二郎は強引に「つばきの約束」を果たし、ガンの義眼を盗んで消えた。実は、二郎は港に派遣された「さぐり屋」だった。彼は漁協の暮らしを映し出す義眼を依頼主の月影という女に手渡す。ガンに代わって残りの約束を無効にさせようと、二郎を捜す蛭一のもとに、やすみが現れる。幼い頃、彼女は海を漂流しガンの船に助けられ、「ヒトか魚か分からぬ女」と呼ばれている。大切に集めた桜貝を鱗のように下半身に纏い、ガンのため人魚になる約束を果たすつもりだ。目の前に調整池の汚水が運び込まれる。だが、彼女は気付いた。自分を泳がせようとする者の真の目的が、桜貝をしまう巾着袋に入れた「幽霊船」の鍵であることに。やすみは、ガンに出会う前、自分は椿と名乗り、幽霊船の船長・魚主に育てられていたと告白する。幽霊船とは海底を掘りおこす、漁師の敵のジャリ取り船。鍵を捜す張本人は月影で、その正体はジャリ取り船を所有する会社の社長である。埋立てにはジャリが必要と、魚主とガン、ふたりの養父から月影との取引を促される。やすみは海を死守するため、鍵を汚水に放ち、人魚の心臓である太ももを自ら短剣で突き刺す。蛭一はプリキで人魚の下半身を作り、やすみに届けに行く。立ち足はだか堤防は開かれ、その下では片足をひいたやすみが蛭一に呼びかけている。(桂真)



### 教室を路地に！ 横浜国大vs紅テント2739日

1997年10月～2005年3月、唐は横浜国立大学教育人間科学部の教壇に立った。教育学部の改革に伴い、唐に国立大学への「密航」を依頼した室井尚教授が、その動機についても語り、唐の大学教授生活を総括する。唐・室井による対談も本書の主要部分を成す。大学教育の現状を問う一冊ともいえる。唐が黒板を破って登場した衝撃的な初講義から最終講義までの間、当初は演劇自体に興味を持たなかった学生たちが、主として演習の場を通じ、次第に唐の作品を演じることに魅せられていく。最終的に「唐ゼミ」は計八回の公演を実現。唐の定年退職後も「劇団唐ゼミ」と名乗り学外で活動を継続する。「状況劇場」とも「唐組」とも異なる、大学だからこそ誕生し得たこの演劇集団は、新国立劇場での上演も果たす。『幽霊』『オイディプス王』等の戯曲に言及した講義メモ「<劇>の由来」、劇団員による座談会、室井教授篇「劇作を中心とした唐十郎略年譜」も収録。(桂真)



### 唐十郎と紅テントその一党 劇団状況劇場1964～1975

#### 状況劇場全記録 写真集 唐組Karagumi

紅テントこと状況劇場、また「アングラ」と称された演劇形態がテキスト(戯曲)の枠組みでは計り知れないことを教えてくれる写真集。通常の舞台写真集とは異なり、テントという上演空間そのものが日常性に対する演劇行為、舞台創造上の重要な戦略であることを物語っている。特に1969年1月新宿西口中央公園で約300人の機動隊に包囲されたまま無許可上演された『腰巻お仙 振袖火事の巻』の写真は、上演それ自体が一つの演劇的实践でも在り得る可能性を示唆すると共に、そうした時代の「新宿」という盛り場の記録でもある。(中野正昭)



図書収録著作

	作品名・論題	収録書名	出版社	出版年	所蔵先
1	ここが舞台だここで演れ 別役実・唐十郎 [ 談 ]	孤立者たちの対話 土方巽 [ ほか著 ]	山梨シルクセンター 出版部	1969.07	090.4/K29-84//H
2	ガラスのヴァギナ	ブラック・ユーモア選集5 日本篇 - 短篇集 伊東守男編	早川書房	1970.04	090.4/K29-106//H
3	笑わぬオカッパの少女論	つげ義春の世界	青林堂	1970.05	090.4/K29-68//H
4	怨恨風景	曠野の歌 - 深尾道典作品集	大光社	1970.10	090.4/K29-80//H
5	ジョン・シルバー	現代日本戯曲大系 第6巻	三一書房	1971.11	912.608/20//H、912/40//W 912/42//DZ、912/15//S
6	二人の少女	伝統と現代 第12 伝統と創造	学藝書林	1971.11	708/14//H、708/11//W
7	腰巻お仙・振袖火事の巻	現代日本戯曲大系 第7巻	三一書房	1972.02	912.608/20//H、912/42//DZ、912/40//W
8	少女仮面 吸血姫	現代日本戯曲大系 第8巻	三一書房	1972.06	912.608/20//H、912/40//W
9	アジアの緯をさぐる	現代文学のフロンティア 壇谷雄高 [ 等述 ]	出帆社	1975.12	910/1914//W
10	久作論	死後の恋 夢野久作著 ( 現代教養文庫 夢野久作傑作選 1 )	社会思想社	1976.11	090.4/K29-67//H
11	演劇の復権 - <見えざる コーラスの側から>	現代世界の文学2 ( 岩波講座文学12 )	岩波書店	1976.12	908/10//H、908/28//DZ、908/73//W
12	滋澤龍彦 唐十郎 ( 往復書簡 ) 過去へのゴンドラ	水底の女 ( イメージの文学誌 )	北宋社	1978.10	914.6/998//H
13	沼病患者の猫町	「猫町」の絵本 [ 堀切直人編 ]	北宋社	1979.03	090.4/K29-85//H
14	退嬰	言葉と世界 大江健三郎 [ ほか ] 編 ( 叢書文化の現在1 )	岩波書店	1981.03	081.6/58//H、HB2/19//H 081/145//W、081/45//S
15	御注意あそばせ	文学 1984 日本文芸家協会編	講談社	1984.04	913.608/12//H、913/48//W
16	メザシを焼く男	人生ひとりの師 山本容朗編	実業之日本社	1984.04	090.4/K29-115//H
17	スッポンポン	ザ・エンターテインメント 1984 日本文芸家協会編	角川書店	1984.06	090.4/K29-78//H
18	ほんとうにシェイクスピアさん なんですか?	超時間対談 田中小実昌 [ ほか ] 著 ( 集英社文庫 )	集英社	1985.01	090.4/K29-114//H
19	安寿子の靴	テレビドラマ代表作選集 1985年版	日本放送作家組合	1985.10	912.7/10//H、912.7/11//W
20	兎の目は桜貝	兎をめぐる十二の物語 唐十郎 [ ほか ] 著	新宿書房	1987.01	090.4/K29-72//H
21	手の用心棒	ベスト小説ランド 1987.2 日本文芸家協会編纂	角川書店	1987.07	
22	河童	幻獣小説集 河童物語 泉鏡花 [ ほか著 ]	北宋社	1988.02	090.4/K29-90//H
23	解説	口笛の歌が聴こえる 嵐山光三郎著 ( 新潮文庫 )	新潮社	1988.10	090.4/K29-117//H
24	佐川君からの手紙 - 舞踏会の手帖	芥川賞全集 第13巻	文藝春秋	1989.02	913.608/35//H、913/262//W、913/86//S
25	Uを求めて	文学 1989 日本文芸家協会編	講談社	1989.04	913.608/12//H、913/48//W
26	ゴーゴリの娘	文学 1991 日本文芸家協会編	講談社	1991.04	913.608/12//H、913/48//W、913/157//S
27	[ インタビュー ]	板の上のファイターたち 土井美和子著	毎日新聞社	1993.12	090.4/K29-113//H
28	雷魚	釣魚の迷宮 - 幻獣小説集 渡辺誠編	北宋社	1994.08	090.4/K29-81//H
29	試行錯誤のぐにゃぐにゃ	無名時代の私 文藝春秋編 ( 文春文庫 )	文藝春秋	1995.03	090.4/K29-108//H
30	恋のアマリリス	恋愛小説名作館2 関口苑生編	講談社	1995.08	090.4/K29-77//H
31	二都物語	現代日本戯曲大系 第9巻	三一書房	1997.06	912.608/20//H、912/40//W
32	見果てぬ夢	少女物語 阿久悠 [ ほか ] 著	朝日新聞社	1998.05	090.4/K29-59//H
33	ピニールの城	現代日本戯曲大系 第13巻	三一書房	1998.06	912.608/20//H、912/40//W
34	雷魚	幻想小説大全 - 鳥獣虫魚	北宋社	2002.01	090.4/K29-61//H
35	恋のアマリリス	男と女 - 青春・恋愛 ( 講談社文芸文庫 戦後短篇小説再発見12 )	講談社	2003.06	090.4/K29-95//H、新書・文庫コーナー//H
36	劇作家と観客の間	いま日本の心を問う 片山文彦、賀陽清編著	原書房	2004.06	090.4/K29-88//H
37	ポスターは芝居の最初の一手	ジャパン・アヴァンギャルド - アングラ演劇傑作ポスター100	バルコエンタテイン メント事業局	2004.06	099/529//H
38	A cry from the City of Virgins ( 少女都市からの呼び声 )	Half a century of Japanese theater / edited by Japan Playwrights Association 6. 1960s, pt. 1	Kinokuniya	2004	090.4/K29-122//H
39	光と闇を駆け抜ける / 唐十郎対談	土方巽全集2 土方巽著、種村季弘・鶴岡善久・元藤輝子編 普及版	河出書房新社	2005.08	769.1/15//H、769.1/11//W
40	「おさな心」と偏執	才能の森 - 現代演劇の創り手たち 扇田昭彦著 ( 朝日選書 788 )	朝日新聞社	2005.11	090.4/K29-109//H

雑誌収録著作

	作品名・論題	収録「誌名」巻(号)	出版社	出版年	所蔵先
1	笑わぬオカッパの少女論	月刊漫画「ガロ」(47)臨時増刊号 つげ義春特集	青林堂	1968.06	個人蔵
2	馬賊幻夜 - 内田良平の迎えた夜話	「駿河台文学」創刊号	明治大学文科の会	1972.05	090.8/125//H、P905/139//H
3	蛇姫様 - 我が心の奈蛇	「新劇」24(6)	白水社	1977.05	P775/5//HZ
4	佐川君からの手紙 - 舞踏会の手帖	「文藝春秋」61(3) 芥川賞発表	文藝春秋	1983.03	P051/26//HZ
5	伸子の帰る家	「文学界」37(3) 芥川賞受賞第一作	文藝春秋	1983.03	P905/1//HZ
6	御注意あそばせ	「文藝」22(4)	河出書房新社	1983.04	P905/4//W
7	あるタップ・ダンサーの物語	「新劇」31(6)	白水社	1984.06	P775/2//HZ
8	胸をかりた頃のこと	「アスベスト館通信」(8)	アスベスト館	1988.08	090.4/K29-101//H
9	青春牡丹燈籠	「小説すばる」7(1)	集英社	1993.01	唐十郎氏
10	海ほおずき 前編	「文学界」49(4)	文藝春秋	1995.04	P905/1//H
11	海ほおずき 後編	「文学界」49(5)	文藝春秋	1995.05	P905/1//H
12	汚れつちまつた悲しみに...	「せりふの時代」3(2)	小学館	1998.05	090.4/K29-116//H
13	蛇行	「新潮」97(5)	新潮社	2000.05	P905/7//H
14	泥人魚	「新潮」100(4)	新潮社	2003.04	P905/7//H
15	特集 中央線の魔力 part.4 高円寺	「東京人」(199)	都市出版株式会社	2004.02	唐十郎氏
16	津波	「せりふの時代」9(2)	小学館	2004.05	唐十郎氏
17	アングラの旗手に聞く 演劇 既成の枠を取り壊し、小劇場演劇 が花開いた	「東京人」(216)	都市出版株式会社	2005.07	唐十郎氏
18	連載 親子のカタチ 7 大鶴義丹・唐十郎	「週刊朝日」(2006/7/28)	朝日新聞社	2006.07	個人蔵



原書名・「作品名」	翻訳作品名	言語	出版社	出版年	所蔵先
1 佐川君からの手紙	부도희의 수집 : 사가와君으로부터의 편지	韓国語	文學世界社	1983.09	
2 佐川君からの手紙	La lettre de Sagawa : roman	フランス語	R. Laffont	1984	
3 佐川君からの手紙	L'adorazione : il giapponese cannibale per amore	イタリア語	Pironti	1985	唐十郎氏
4 ジョン・シルバー	Pasto d'amore	イタリア語	Pironti	1987	唐十郎氏
5 佐川君からの手紙	La carta de Sagawa (Panorama de narrativas 124)	スペイン語	Anagrama	1988	
6 ジョン・シルバー	John Silver (Japanese drama and culture in the 1960's : the return of the gods)	英語	M.E. Sharpe	1988	
7 少女仮面/ふたりの女	The virgin's mask ; Two women (Alternative Japanese drama : ten plays)	英語	University of Hawaii Press	1992	090.4/K29-118//H
8 ゴーゴリの娘	Gogols Tochter (Verführerischer Adlerfarn : Anthologie japanischer Erzählungen : das literarische Japanesebuch)	ドイツ語	Konkurs-buchverlag Claudia Gehrke	1999	090.4/K29-119//H
9 ジョン・シルバー	John Silver : the beggar of love (The return of the gods : Japanese drama and culture in the 1960s)	英語	East Asia Program, Cornell University	2003	090.4/K29-120//H
10 泥人魚	진흙인어 (현대일본희곡집 2)	韓国語	演劇と人間	2005.11	090.4/K29-121//K

## 唐十郎研究・論評等

執筆者	『書名』、論題	『収録書名』、「掲載誌」巻(号)	出版社	出版年	所蔵先
1	実験の演出に成功 - 劇団「状況劇場」第2回公演	『週刊明治大学新聞』1020	明治大学新聞学会	1964.04	N/16//H
2 山田恒人	正統“戯曲”の不在 即物的な空間のアングラ(演劇時評)	『週刊明治大学新聞』1258	明治大学新聞学会	1970.04	N/16//H
3	唐十郎の世界	『別冊新評』7(3)	新評社	1974.10	090.4/K29-56//H
4	『唐十郎と紅テントその一党 : 劇団状況劇場1964-1975』		白川書院	1976.06	090.28/40//H
5	『唐十郎の世界』		新評社	1979.05	910.28/909//HZ、910/2456//W
6 山口猛	『同時代人としての唐十郎』		三一書房	1980.05	775.5/3//H
7	『唐組 - 状況劇場全記録 写真集』		パルコ出版	1982.04	090.4/K29-57//H、775/60//W
8	劇団状況劇場、唐組	『別冊太陽』現代演劇60's~90's	平凡社	1991.03	個人蔵
9 堀切直人	『唐十郎ギャラクシー』		青弓社	1998.07	090.28/33//H、775.5/6//H 775/117//W
10 緑魔子	唐十郎のヒロイン - 緑魔子ひとり語り	『劇団第七病棟25年の軌跡』	劇団第七病棟	2000.05	個人蔵
11 清水博純	『劇団唐組 - 紅テント 闇のなかに光を見た - 清水博純写真集』		アトリエ・クライム	2003.11	唐十郎氏
12 堀切直人 徳永京子	特集 いま、激しく唐十郎の海を泳ぐこと	『en-taxi』(06)	扶桑社	2004.06	090.4/K29-110//H
13 堀切直人	『唐十郎がいる唐組がある二十一世紀』		青弓社	2004.11	090.28/34//H、775.5/2//W
14 今村守之	家族のかたち	『Yomiuri weekly』64(7)	読売新聞社	2005.02	唐十郎氏
15 十文字美信	「眼さん」ほか	『日本劇壇』	びあ	2005.10	772.1/182//H
16	特集 やっぱり唐十郎なのだ。	『シアターガイド』165	モーニングデスク	2005.10	090.4/K29-123//H
17	特集 唐十郎特別講義レポート	『Re : v2005 (リヴ)』(1)	近畿大学文芸学部 芸術学科演劇・芸能専攻	2006.03	唐十郎氏
18	『唐十郎 - 紅テント・ルネサンス!』		河出書房新社	2006.04	090.4/K29-102//H
19 小山鉄郎	唐十郎さんが語る寺山修司(文人往来)	『中國新聞』2006年8月24日	中國新聞社	2006.08	新聞コーナー//H

## 唐十郎をテーマにした学位論文

	論文名 / 著者	国名	言語	提出大学・提出年	所蔵先
1	Kara Jûrô, Tokkenteki nikutairon, Il corpo semiotico dell'attore : tesi di laurea / Cinzia Coden	イタリア	日本語 イタリア語	Università Ca' Foscari di Venezia, anno accademico 1999-2000	唐十郎氏

## 上演・映画等関係資料

所蔵先に特記なきは唐十郎氏提供

	品名	製作・出版社	製作・出版年	備考	所蔵先
1	[創作ノート] 桃太郎の母 1 - 2		1992.11	自筆	
2	[創作ノート] 動物園が消える日		1993.06-07	自筆	
3	[創作ノート] 泥人魚 1 - 2		2002.10-11	自筆	
4	[創作ノート] 紙芝居の絵の町で 1 - 2		2005.11-12	自筆	
5	[台本] 糸姫	劇団状況劇場	1975.00		090.4/K29-98//H
6	[台本] 虹屋敷	劇団唐組	1992.秋		
7	[台本] 桃太郎の母	劇団唐組	1993.春		
8	[台本] 動物園が消える日	劇団唐組	1993.秋		
9	[台本] 赤い靴	劇団唐組	1996.秋		
10	[台本] 汚れつちまつた悲しみに...	劇団唐組	1998.春		
11	[台本] 眠り草	劇団唐組	1999.春		
12	[台本] 鯨リチャード	劇団唐組	2000.秋		
13	[台本] 夜壺	劇団唐組	2000.春		
14	[台本] 糸女郎	劇団唐組	2002.春		
15	[台本] 河童	劇団唐組	2003.秋		
16	[台本] 泥人魚	劇団唐組	2003.春		
17	[台本] 津波	劇団唐組	2004.春		
18	[台本] 紙芝居の絵の町で	劇団唐組	2006.春		
19	[台本] ユニコン物語 台東区篇		1978.04-06		
20	[台本] 達磨が恋暦 - 唐版おさん茂兵衛		1988.10	新橋演舞場	
21	[台本] 秘密の花園		1982.11	下北沢本多劇場	
22	[台本] 盲導犬		1989.11		

	品名	製作・出版社	製作・出版年	備考	所蔵先
23	[台本] 秘密の花園		1999.10		
24	[台本] 唐版 滝の白糸		2000.01	Bunkamuraシアターコクーン	
25	[公演チラシ] さすらいのジェニー 下町唐座春期登場記念公演		1988.04-05		
26	裏切りの街	劇団唐組	1995.02		090.4/K29-93//H
27	[公演チラシ] マラカス - 消尽		1998.10-11	出演・佐野史郎	個人蔵
28	[公演チラシ] 鉛の兵隊 唐組第35回	劇団唐組	2005.04-06		
29	[公演チラシ] 透明人間 唐組第38回	劇団唐組	2006.08		090.4/K29-112//H
30	[公演プログラム] 盲導犬; 黒いチュールリップ	新国立劇場運営財団	2005.09		775.1/89//H
31	[公演パンフレット] 秘密の花園	Theatre1010	2006.04		
32	[ポスター] ジョン・シルバー 愛の乞食篇	劇団状況劇場	1970.08		
33	[ポスター] あれからのジョン・シルバー、少女仮面	劇団状況劇場	1971.08-11		
34	[ポスター] 匂ひガラス	劇団唐組	1994.04-06		
35	[ポスター] 唐十郎 日本のシェイクスピア (第3回近畿大学芸術フェスティバル)	近畿大学	2005.02		
36	[小道具] 木製大刀		1971	「吸血姫」で使用	
37	[小道具] 金冠義歯		1972	「鐵假面」で使用。根津基八氏兄の歯科医が製作	
38	[小道具] 鮭頭		2005	「鉛の兵隊」で使用	
39	[小道具] 潜水帽		2003	「泥人魚」で使用	
40	[小道具] 湯タンポ		2003	「泥人魚」で使用	
41	[映画シナリオ] 新宿泥棒日記 (アートシアター 65)	アートシアターギルド	1969.02		個人蔵
42	[映画シナリオ] 修羅 (アートシアター 84)	アートシアターギルド	1971.02		個人蔵
43	[映画シナリオ] 任侠外伝・玄海灘 (アートシアター 121)	アートシアターギルド	1976.05		個人蔵
44	[映画シナリオ] ガラスの使徒		2004.09		
45	[映画チラシ] 海ほおずき		1996		個人蔵
46	[映画パンフレット] ジャズ大名		1986		090.4/O132-16//H
47	[テレビ台本] 匂ひガラス	NHK大阪放送局	1986.11		
48	[テレビ台本] 緑の果て (NHKスペシャル・ドラマ)	NHK	1990.06		
49	[テレビ台本] 北の国から - 2002遺言 前編、後編	フジテレビ、FCC	2002		
50	[テレビ台本] 海峡を渡るバイオリン	フジテレビ	2004.11		
51	[ビデオ] ポクサー	東映	1989.05		個人蔵
52	[ビデオ] ジャガーの眼	ホールマン・オフィス	1991		
53	[ビデオ] セルロイドの乳首	ホールマン・オフィス	1991		
54	[ビデオ] 透明人間	ホールマン・オフィス	1991		
55	[ビデオ] 檳榔的封印: 台湾版		1992		
56	[ビデオ] 電子城 : フェロモンの呪縛の巻	ホールマン・オフィス	1992		
57	[ビデオ] 桃太郎の母		1993		
58	[ビデオ] 海ほおずき	ボニー・キャニオン	1997.04		個人蔵
59	[ビデオ] 犯された白衣	ワイズ出版	1997.05		
60	[ビデオ] 台湾 (世界わが心の旅27) 旅人 唐十郎	NHKエンタープライズ	1998		
61	[DVD] 北の国から - 2002遺言		2003.06		
62	[DVD] 修羅	SPO	2004.02		個人蔵
63	[DVD] 秘密の花園		2004		
64	[DVD] ガラスの使徒	ジェネオン	2006.09		個人蔵
65	[LP] 四角いジャングルで唄う 唐十郎		1973.02		個人蔵
66	[カセットテープ] 音版「唐組」- 紅テント劇中歌集	PARCO出版	1984		
67	[CD] キング・ニューロックシングル集 ファンキー・ダッコ no.1 さすらいの唄 (歌: 唐十郎)	キングレコード	1999		個人蔵

## その他

### 唐十郎氏提供

	品名	発行者	発行年	備考
1	第十五回岸田國士戯曲賞 壺		1970	少女仮面
2	第六回泉鏡花文学賞 賞状及び楯	金沢市	1978.11	海星・河童
3	第八十八回芥川龍之介賞 懐中時計	日本文学振興会	1983.02	佐川君からの手紙
4	『佐川君からの手紙』のベストセラーに対する感謝状	河出書房新社	1983.03	
5	花園賞 賞状及びトロフィー	花園神社	2001.06	
6	第三十八回紀伊國屋演劇賞 個人賞 賞状	紀伊國屋書店	2004.01	泥人魚
7	第五十五回讀賣文学賞 戯曲・シナリオ賞 硯	讀賣新聞社	2004.02	泥人魚
8	第十一回讀賣演劇大賞 優秀演出家賞 トロフィー及びリーフレット	讀賣新聞社	2004.02	泥人魚
9	第七回鶴屋南北戯曲賞 賞状及びトロフィー	光文シエラザード文化財団	2004.03	泥人魚
10	第十三回讀賣演劇大賞 芸術栄誉賞 トロフィー	讀賣新聞社	2006.02	
11	祝電	麻実れい	2003	
12	祝電	石橋蓮司、緑魔子	2003	
13	万年筆 (イブサンローラン)			
14	万年筆 (イチョウ)			
15	万年筆 (モンブラン、ドストエフスキーモデル)			* 2003年の紀伊國屋演劇賞等三賞受賞を祝して鬼子母神法明寺近江正典氏から贈られたもの
16	ボールペン (ウォーターマン)			* 同じく、テレビ制作会社アマゾン代表取締役倉内均氏より贈られたもの
17	指輪 (瑪瑙)			* 1973年「ベンガルの虎」の記念品として嵐山光三郎、村松友視氏から贈られたもの
18	「劇団唐組」木製表札			

# 実験的演出に成功

劇団「状況劇場」第2回公演

## 本学の演劇畑に新しい芽



「芸術的ナチズム」と称するクワテ、新宿の日立レディスクラブホ  
タ破りクの新しい感覚の集団、劇  
団「状況劇場」が四月十一日午後  
二時、四時、六時の三回にわたつ  
この「状況劇場」は、三十五年

に本学文学部演劇科を卒業した大  
鶴義英、笠原茂峻、駿馬一、古賀  
靖氏らを中心に結成されたもので  
さらに深井甫勇(36年文卒)や在  
学中の杉田栄子氏など、また本学  
関係者外からも演劇志望の青年多  
数加わって昨年待望の旗上げ公  
演「恭々しき婦人(サルトル)」  
を発表した。

今回の第二回公演は、さらに実  
験的新しい方法をこころみようと  
いう意欲をもって、リーダーの大  
鶴義英(筆名唐十郎)氏のオリジ  
ナル「二十四時五十三分」塔の下  
で行きは、竹早町の駄菓子屋の前  
で待っている」に取り組んだもの  
である。大鶴氏は在学中、本学の  
学生劇団「実験劇場」の、また笠  
原氏は「劇団新制作」のそれぞれ  
中核メンバーとして活躍してきた  
文字通り本学生え抜きの演劇青年  
である。

今回の公演でも舞台と客席を一  
元化して、芝居と現実を幻想的に  
錯誤、混迷させるといふ実験的演  
出に取り組んで、ますますの成功

て日本的で(しかも浅草の重喜  
劇的)その上、詩的でさえも  
ある。

【写真は第二回公演の舞台】



第17回 明治大学中央図書館企画展示  
明治大学特別功労賞受賞記念  
唐十郎展

展示企画：明治大学中央図書館ギャラリー企画運営WG  
浮塚利夫、福田留理子、金澤敦子、宮澤順子、鈴木秀子、  
平田さくら、矢野恵子

目録編集：飯澤文夫、吉田千草、鈴木秀子

解題執筆：武田清（監修）、大橋裕美、桂真、中野正昭

資料提供：唐十郎氏、大鶴美和子氏、劇団唐組、鈴木明彦氏、共同通信社、  
飯澤文夫

後援：明治大学連合父母会、明治大学校友会、連合駿台会

発行：明治大学（東京都千代田区神田駿河台1-1）

発行日：2006年11月

制作：(株)サンヨー